



—特集—

「たくましく やさしい 夢のある子ども」 を育てるお手伝い



茅野市の保育園では、共働き世帯などのニーズに合わせた朝夕の延長保育や、日中の保育をお手伝いしてもらう人など、多くの方々のご協力をいただき、地域の子どもたちを預かっています。今回は、その仕事と魅力についてご紹介します。

Interview



宮川保育園
小飼 実さん =延長保育補助員=

子どもが元から好きだったので、退職後、保育の仕事に関われたらと思っていたところ、延長保育補助員をしている知り合いから紹介してもらいました。男性でもできるのであれば参加したいと思い、今年の4月から始めました。
子どもたちのさまざまな表情に気持ちを和らげてもらえたり、子どもたちが日々成長していく姿を近くで見られることは、本当に新鮮な経験です。子どもたちと接することは刺激になりますし、逆に、子どもたちから勉強させてもらうこともたくさんあります。
これからもできる限り延長保育補助員を続けて、子どもたちと関わっていきたくと思っています。

宮川保育園
長田 ひさ子さん =延長保育補助員=

保育園や学童クラブでの勤務を経験し、約10年前から延長保育補助員をしています。
子どもたちが寄ってきて、「先生！先生！」と呼んでくれて、色々なことを教えてくれたり、話してくれる時は嬉しい瞬間です。また、保育園を卒園して、小学校に入学した子どもたちが時々会いに来て、大きく成長した姿を見た時には「やってよかった。」とやりがいを感じます。
子どもたちの成長を近くで見守ることができて、感動を沢山もらえることもこの仕事の魅力だと思います。子どもたちのパワーをもらって自分自身も楽しむことができる仕事だと思うので、興味のある方には、ぜひ参加してもらえたらと思います。

泉野保育園
上原 寛人さん =保育サポーター=

約8年、保育サポーターをしています。孫が保育園に入園することに合わせて、子どもと関わる仕事をしたいと思い始めました。普段は、子どもたちと遊んだり、ご飯を一緒に食べたり、草刈り、力仕事なども行って保育園のサポートをしています。
朝、子どもたちから「おじいちゃん」と元気よく声をかけられる時や、たくさんの子どもたちが、私の隣でご飯を食べたいと言ってくれる時は本当に嬉しいです。保育サポーターをすることで、規則正しい生活を送ることができ、自分自身の健康にも繋がっています。
やってみると楽しい仕事ですし、やりがいも感じられるので、皆さんにもぜひチャレンジしてほしいです。

延長保育補助員と保育サポーターを募集しています。

延長保育補助員

- 応募資格
 - ・年齢75歳までの健康な方
 - ・保育士資格の有無は問いません
- 勤務期間・時間
 - ・令和6年4月1日～令和7年3月31日（更新あり）
 - ・勤務時間は①、②の両方又はどちらかを選択することができます。
 - ①7：30～8：30 / ②16：00～18：30（19：00）
- 勤務場所
 - ・市内公立保育園14園のいずれか
- 応募方法
 - ・①、②のいずれかの方法でお申込みください。
 - ①市役所6階幼児教育課窓口
 - ②ハローワーク
 - ・2月下旬に市役所で面接を行います。（持ち物：履歴書、保育士資格のある方は保育士証の写し）

保育サポーター

- 応募資格
 - ・年齢60～75歳までの男性で健康な方
- 勤務期間・時間
 - ・令和6年4月1日～令和7年3月31日（更新あり）
 - ・勤務時間8：30～13：45（休憩あり）
- 勤務場所
 - ・市内公立保育園14園のいずれか
- 応募方法
 - ・①、②のいずれかの方法でお申込みください。
 - ①市役所6階幼児教育課窓口
 - ②ハローワーク
 - ・2月下旬に市内保育園で面接と子どもと一緒に遊ぶ姿を見せていただきます。（持ち物：履歴書）

問い合わせ先 幼児教育課 幼児教育係（市役所6階） / ☎72-2101（内線622） / E-mail：yojikoiku@city.chino.lg.jp

延長保育補助員

保育園では、保護者の就労状況等現代の多様な働き方に対応し、子育てと仕事を両立しやすくするために、時間を延長して子どもを預かる「延長保育」を行っています。「延長保育」は、朝午前7時30分から、夜は最も遅い保育園で午後7時まで預かるため、朝はぐずったり、夕方は迎えを待つ間に寂しくなる子どももいますが、子どもも保護者も安心できるように保育士と延長保育補助員（保育資格を持つ職員と保育資格はありませんがサポートする職員）が、異なる年齢の子どもたちを保育をしています。子育てが落ち着いた方や、地域のために自分ができることを協力したいという子どもが大好きな方が動いています。
保護者からは、昼間と同じ保育園のため、安心して預けることができるという声をいただいています。

保育サポーター

核家族化による祖父母に会う機会の減少や、働き方が多様化する中で、家庭内で特に父親と接する時間が減っているケースもあるため、子どもの健やかな成長を支援していく一つとして、「おじいちゃん役」の保育サポーターを公立保育園に1名ずつ配属し、保育園における家族機能をより豊かにすることを目指しています。



保育サポーターは、保育士の資格を持たない60歳以上の方々で、主に保育士のサポート役として、子どもと遊んだり、時には一緒に給食を食べるなど子どもたちに大人気です。また、園内の簡単な修繕や環境整備作業などもしてもらいます。これまでの経歴は、みなさん異なりますが、自分の経験や得意分野を活かしながら、温かく子どもたちをサポートしています。
温かい見守り
少子化により、子どもの数は減少傾向ですが、0～2歳で入園する子どもの数は増加傾向にあるため、健やかな成長を見守る大人の目は、これまで以上に必要になっています。保育園では、地域の子どもたちを今まで以上に温かく見守っていきます。